

1 学校として目指す授業

対話的、主体的な深い学びの実現を目指し、表現活動や課題解決型授業の実践を通して「教える授業」から「考える授業」へ。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>(国語) 言葉の特徴や使い方に関する事項の理解が劣り、読むことについての能力が少し足りない。</p> <p>(数学) データの分類や活用、式の変形や証明、数学的な説明を要する問題で正解率が低くなっている。また、全体として無解答の割合が少し高い傾向がある。</p>	<p>就寝時間や起床時間、朝食などの習慣については、他地域と大きな違いが認められないが、学習時間の少ない生徒やゲーム、スマホにかかわる時間の多さが気になるところである。勉強に意義を見いだせない生徒が少なくない。</p>

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

(1年生) 学習習慣を分析すると家庭学習を全くしていない生徒が34%と高い傾向にある。また、2時間以下の生徒も含めると全体の過半数を超えることから、授業で学んだ内容を復習する時間が足りず、定着していない生徒が多いと考えられる。また、疑問に思ったことや興味をもったことを自ら進んで聞いたり、調べたりする生徒の割合が低い。このことから、わからないことをわからないままにしてしまっている生徒が多くいると思われる。(2年生) 学習習慣を分析すると、1週間の合計で全く家庭学習を行っていない生徒の割合が42.6%であった。家庭学習ノートを学年の取組に取り入れ、復習を中心とした家庭学習の習慣を身に付けていく。各教科の授業の内容に対する理解については、「分かる」・できるを含めた結果が昨年度より低くなっていた。その一方で、授業の取組の中で「できた」「分かった」と感じる生徒は多く、英語・数学による少人数・習熟度別授業や、授業のねらいや振り返りを全教科に取り入れる三中スタンダードの効果が出ていると思われる。(3年生) 家庭学習の時間が、週2時間以下、全くしないがそれぞれ20%前後いる。学習習慣のある生徒と力の差が大きくなっているように思われる。授業では、「好き」や「わかる」の割合も多く、それを定着させる学習時間の確保が課題である。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

(国語育む定着) 「漢字を読む」ことはできても「漢字を書く」力が弱い。また、「文章を書く」ことが苦手な生徒が多い。朝読書の時間を通して、正しい文章に触れることと、日常の場面で漢字を使わせることを意識させたい。その上で「文章の読み取り」等の「考える授業」が展開できると考える。

(数学) 「文字式」「1次方程式」という、計算の基礎が定着していない生徒が多い。また、「1次関数」のような、事象を多角的にとらえることや、文章の読み取りが必要な分野を苦手とする生徒が多い。「問題練習」の充実を図りたいと考える。

(4) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果	
<p>新体力テストの結果を活用し体力の向上に向けて取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質、能力を育ませていく。</p>	

3 生徒の学力・学習状況等の課題

全体として基礎学力の定着不足が課題である。その大きな要因として、学習習慣の確立や家庭学習の習慣化が十分ではない点が課題としてあげられる。授業では理解できていても、授業以外での自主的な学習が習慣化していないために、学習の成果がつかず、基礎的な学力も定着しにくい状況になっていると考えられる。その根底にあるのは、学びに対して受け身であることが課題であると考えられる。

4 学校全体の授業改善の視点

各教科で「あじみこし」の定着による『規律ある授業』の展開と、「ねらいの明示と振り返りの実践」を取り入れた課題解決型学習や表現活動の重視を通して『考えさせる授業』の指導法の工夫改善を図る。(三中授業スタンダードの定着)

【授業改善推進プランの活用法】
<p>①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。</p> <p>②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。</p> <p>③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。</p> <p>④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。</p> <p>⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。</p> <p>⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施</p>

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	基本的な漢字の読み書きの定着が不十分で、語彙力に乏しい。教材に出てくる言葉から派生・関連する語句や表現に触れる機会を増やす。文章の展開を意識しながら内容を理解するために、接続語や指示語、キーワードに注目させるとともに、本文の根拠を明確にして読み取る活動を充実させる。		思考・判断・表現に関しては、授業形態、発問を工夫し、知識を活用する機会を継続して行う。また、資料の読み取り、それを用いて仲間との対話を増やし、問題を解く過程で多角的・多面的に思考できるよう工夫し指導していく。		授業の目標を明確にし、振り返りを行いながら進めていく。また、反復演習をしながら、小テスト・定期テストなどを目標に生徒に自信をつけさせ、家庭学習の習慣の定着と学習意欲を高めていきたい。		授業への取り組みは前向きで、全体的な雰囲気はよく、発言も多い。ただ、基本的な計算力や、問題を読み取る力が弱い生徒も少なくない。放課後等を利用して、個々に対応した学習教室を開くなどしなと解決できないと考える。また、中学校では対応困難な観察・実験についてはICTの活用を進めていく。		発声や体の使い方についての指導を繰り返すこと、音域に応じた発声や言葉の発音などの混声合唱に必要な基礎的な技術を身に付けていきたい。鑑賞では、音楽から聴き取ったことを意見交換する活動を増やし、音楽の特徴やよさについての理解を深めたい。		1時間ごとの目標を明確にする。また、技能向上のために、個別指導を充実させる。鑑賞ではICTを活用する。制作活動中にも鑑賞タイムを設け、言語活動を取り入れることで、言葉で表す力も高めたい。		1時間ごとの目標を明確にすることや単元の目標をより明確に示し、見通しを持った学習を工夫していく。また、仲間と支えあって活動する経験を増やし、苦手なものにも取り組める力を養っていく。さらに、段階的な指導を通して、確実な知識・技能の習得を目指していく。		1時間ごとの目標を明確にする。基礎的・基本的な知識と技能の定着を図り、安全な道具、機器の使用方法を指導する。食品の選択や調理のしかたと資源や環境とのかわりや地域の食文化など、身近なものから興味を持たせ、理解させるとともに、授業の取り組みなども指導していく。		毎時間の授業の目標を明確にし、基礎・基本の定着を図っていく。また、基本的なコミュニケーション活動に必要な音声や表現、文法などを習得し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていく。		年間指導計画に沿って題材を選択し、意見交換を通して考えをより深めたい。道徳の時間を使って、判断力の成長につなげていく。そのためには、普段の行動で振り返ることができるような学習活動を意識させる。また、ローテーション授業やICT活用も実践していきたい。	
2 学年	基本的な漢字・語句の意味等、国語常識が不足している生徒が多い。じっくり文章を読みつつ、基本知識の徹底を図りたい。また、自分で考え、それを言葉にする、書くというのを苦手とする生徒も多い。自分の考えを提示する機会を増やし、考えて言葉にする力を養いたい。☒		思考・判断・表現に関しては、授業形態、発問を工夫し、知識を活用する機会を継続して行う。また、資料の読み取り、それを用いて仲間との対話を増やし、問題を解く過程で多角的・多面的に思考できるよう工夫し指導していく。		関数や図形単元ではデジタル教材書を活用し、視覚的にも捉えさせたい。また習熟度別少人数授業での利点を活かし、授業中に多くの個別支援を行っていく。休み明けテストなどを通して達成感をもてるようにする。		生徒たちが実際に手を動かす実験を増やすことで、記憶に残りやすく、理解を深める。授業の課題をスモールステップで設定することにより、生徒が自ら課題を解決する場面をつくり、達成感の向上につなげる。		強弱や曲想に応じた声の出し方を練習し、工夫して音楽表現するための技術を身に付けたい。鑑賞では、音楽を形づくっている要素や聴くポイントを提示することで聴き取ったことを自分の言葉で表すことができるようにしていく。		取り組んだことが結果として見やうい課題を用意し、段階的に技能が身に付いていくように工夫をする。完成までの道のりの全体像をつかませながら、毎時間小さな目標を設定し意識させる。		生徒自らがどのような力を身につけていけばよいかを考え、自らその力の獲得に向けた授業内での取り組み方を工夫できるような課題を設定していく。また、身につけた知識・技能をどのような場面で生かすことができるかを例示も交えながら提示し、より単元のねらいに迫った活動ができるようにする。		今日的な課題としてエネルギー関係についての知識を深め、模型を活用した課題解決がたのグループワークを行う。特に、目録・場面・状況を明確にした上で、思考・判断・表現させる取組を増やしていく。		単元ごとに技能領域を取り込み、指導目標・言語活動・評価の整合性が図られた授業を行う。特に、話すことの「やり取り」では、目的・場面・状況を明確にした上で、思考・判断・表現させる取組を増やしていく。		年間指導計画に沿って題材を選択し、ローテーション授業において、意見交換などで考えをより深め、判断力の育成を図りたい。そして今後に活かせる学習活動を意識させる。またICT活用も実践したい。	
3 学年	基礎的な漢字の書き取り、言葉の特徴や使い方に関する事項の定着が不十分である。集中して繰り返して取り組めるようICTを活用した教材を準備するなど工夫する。また、必要な情報に着目して文章を要約するなど、読む力を伸ばすために、文章の中心的部分と付加的部分とを分けて読み取っていく活動を増やす。		思考・判断・表現に関しては、授業形態、発問を工夫し、知識を活用する機会を継続して行う。また、資料の読み取り、それを用いて仲間との対話を増やし、問題を解く過程で多角的・多面的に思考できるよう工夫し指導していく。		習熟度別少人数授業の利点を生かし、授業ごとに設定した小さな目標達成を積み重ねることによって、各コースごとに設定した大きな目標達成を目指す。各定期考査の振り返りなどを通して復習に重点をおく。		図や動画、実物を多用し、視覚的に理解しやすいように授業を構成する。教科書の内容を具体的な例や身近な物を用いることで理科や対しての興味を引き出す。実験や観察の機会を増やし、生徒が結果を予測し、実験結果を考察するプロセスを通じて学びを深める。さらに、結果を他の生徒と共有し、意見交換を行う。		曲想の変化や声部の役割を考えながら工夫して表現することができるよう、既習事項を実際の表現に生かす活動を行う。鑑賞では複数の作品と比較鑑賞することで音楽の多様性の理解を深められるようにする。		発想・構想時に様々な角度からイメージを膨らませてから表現できるように、生徒同士の意見交換の場を設ける。言語活動からイメージの具現化ができる活動を増やす。また、制作後の鑑賞活動も充実させる。		高校への接続や生涯にわたってスポーツに親しむ力を養っていただくために、生徒が自主的に教えあつたり、支えあつたりすることができるよう活動の場を工夫していく。また、より発展的な知識・技能の獲得を目指し、課題に応じた活動の場を設定したり、工夫したりしていく。		身の回りの課題を見出し、チャットボットアプリでどのように解決できるか、ウェブサイトのしくみを身に付けながら取り組む。自分の生活や家族について、課題を見つけて工夫させ、幼児の生活の発展に応じて必要な条件を学ばせる。		単元ごとにどのような力をつけていきたいかを明確にし、練習量を確保して、学び方を追求する。目的・場面・状況を設定した課題を提示し、自分で考え、それを分かち合う時間を設け、自己表現の場をさらに増やしていく。		年間指導計画に沿って題材を選択し、ペア・班で意見交換を行い、また赤ちゃんプロジェクトなどの体験を通して、自己理解・他者理解を深めていく。振り返りを丁寧にを行い、多面的・多角的に考え、社会と自己の関わりを深めるような場を設けていきたい。	